

## 令和元年度第1回青森県立郷土館協議会について（会議概要）

令和元年度第1回青森県立郷土館協議会が開催されましたので、その内容をお知らせします。

### 1 日 時

令和元年7月16日（火） 午後1時30分～3時30分

### 2 場 所

青森県庁南棟4階A会議室

### 3 案件

- (1) 副議長の選任
- (2) 平成30年度事業実施状況及び利用状況
- (3) 令和元年度事業実施計画
- (4) 青森県立郷土館の博物館評価
- (5) その他

### 4 委員からの主な意見

- 特別展、企画展について、多くの人が来館する展示は県民にとって魅力的であり、郷土館に足を運んでいただくことに効果を発揮していると思うので、これまでの展示をまた繰り返したり、何年おきかに行うなど機会があったらまた開催してもいいと思う。
- スチューデント・キュレーターによるクルーズ船誘客歓迎活動は、生徒が活動することによって、私たちの郷土の魅力を感じてもらい、郷土館への見学や外国人の誘客にもつながる。継続していけばきっと子どもたちの役にも立つ非常にいい事業だと思う。
- おいしいコーヒーが飲める場所がほしい、ゆったり休憩できる場所がほしい。休憩コーナーの改善とミュージアムショップの設置を是非検討してほしい。
- 玄関の雰囲気とか暗いので、折角の建物をどのようにアピールしていくかが大切だと思う。玄関前のピロティ部分を活用するなどして、子ども向けのイベントなどを行うのも明るい雰囲気に結びつくと思う。
- 展示解説のプレートの字が小さいので見やすい大きさにしてほしい。また、外国人のためにQRコードで英語など複数の外国語の説明を検討してもらいたい。
- 三内丸山遺跡センターだけでなく、郷土館にもすばらしい考古資料があることをもっとアピールしてもらいたい。

- 向かい側の神明宮の宵宮の時に、無料で土偶に触れるなどのイベントなどを行うと郷土館への理解や親しみにつながるのではないかと思う。
- 利用者の状況では、県内の方、青森市の方がかなり多いので、リピーターが何度も足を運ぶような企画や、利用のしやすさ、雰囲気や明るさなども含めて今後さらに工夫して欲しい。
- 施設は、歴史があり、趣があってとてもいいと思うが、開館していることがすぐわかるような案内表示もあった方がよいと思う。
- 夏休みこどものくにのイベントについて、利用可能な室の関係なのか、イベント内容によって開催場所が分かれているので、郷土館の事業ならば郷土館で行って来館に結びつけた方がよいと思う。
- 特別展の「ひらく・つくる・みゆる」について、小学校5年生の総合的な学習の時間で稲を育てる活動をする学校もあり、日本人の主食のコメに関して様々なことを知りたいと思っている子どもたちにとって、関連イベントも含めいい機会だと思う。
- 教員を対象とした「授業に役立つ博物館研修」は、郷土館について子どもたちに教えたい、伝えたいと考えている教員にとっていい企画だと思う。
- 施設は、旧銀行だった建物で国の登録有形文化財にもなっていて、この形に手を加えるのは相当難しいと思うので、照明を工夫するなどして、今のいいところを活かしていくことも一つの方法ではないか。
- 県内市町村などで、いろいろな講座を担当してもどんな講師がいいのか、どういう企画がいいのかなど、主催者は悩んでいると思うので、講師派遣事業にもう少し力を入れても良いと思う。
- 調査研究事業は博物館の大きい柱の一つであるが、現状の職員数では今後十分な体制は難しいのではないかと思う。博物館の職員だけで取り組んで行く時代はもう終わったと思うので、外部からの参加を依頼するなど、調査体制を考えていかなければならないし、また、そういうことも開かれた博物館につながっていくと思う。
- 中期事業計画について、出来ないかもしれないけれどやってみたいことなども示し、ぜひ集中してその効果が上がるようにするなどしていただきたい。
- 例えば、出前授業などに行くときの公用車の車体に「郷土館」と書いてあれば、PRにつながり、郷土館というのがあることを知る、分からないときには郷土館に行けば何かわかる、ということにもつながっていくのではないかと思う。

- 子どもは地域の宝、青森市の宝、青森県の宝であり、未来の宝である。その子どもたちへの教育普及として実施している出前授業は昔の道具や暮らしについて実際に道具を見せたりしている非常にすばらしい事業であると思っている。
- 小学校では子どもたちの郷土への興味関心を高めるため、郷土館に見学に来ていると思うが、できれば県内のすべての学校に来てもらいたいと思っている。来た時に5分でも、クイズラリーや紙芝居を行うなどの工夫をすれば、後日また来館してみたいということにつながるのではないかと思う。
- 来年度はオリンピックが開かれるが、聖火の意義や歴史、点火方法、聖火リレーが走る市町村の歴史や復興に資することなどを内容とした展示を行ったらいいと思う。
- 新収蔵展について、一般の方には「新収蔵」という意味が分からなくて、せっかく広報しても来館に結びつかない面もあると思うので、名称を工夫するのもいいと思う。
- 冬休みの期間に行っている「めぐり回し」は男の子の遊びなので、女の子の遊びも設けてはいかがでしょうか。
- 国際博物館会議が今年の9月に京都であり、これまでの博物館の定義にプラスアルファか、変更があるのではないかという話を聞いた。今後、郷土館も変化を求められる時が訪れるかもしれない。郷土館だけで何かをやるのではなく、回りも引き込みながらやっていくような体制を取っていく必要があると思う。